

図書館等複合施設整備事業 情報環境構築業務 公募型プロポーザル審査結果

<最優秀提案者及び優秀提案者の選定について>

標記プロポーザルに係る審査は、「図書館等複合施設整備事業 情報環境構築業務 公募型プロポーザル実施要領」に基づき、第一次審査及び第二次審査の2段階方式により選定を行いました。選定にあたっては、専門的かつ公正な審査を行うため、学識経験者及び行政関係者で構成する審査委員会を設置しました。

参加表明書の提出があった3者に対していずれも参加資格を満たすことを確認後、第一次審査では、3者から提出された技術提案書について書類審査を行い、3者を第二次審査の対象者として選定しました。

第二次審査では、対象者3者と公開によるプレゼンテーション及びダイアログ（対話）を行い、第一次審査の評価点数に「技術提案の内容」の加算ポイント、「コミュニケーション能力」、「本業務の取組意欲」の観点を加えて総合的に審査し、以下のとおり最優秀提案者及び優秀提案者を選定しました。

なお、評価点数及び審査講評については別紙をご覧ください。

◎最優秀提案者 おぢや複合施設プロジェクト共同企業体

○優秀提案者 CEC 新潟情報サービス株式会社

令和5年6月20日

<審査委員会>

委員長 平賀 研也（前県立長野図書館長）
委員 氏原 茂将（株式会社国際開発コンサルタンツ東京支店）
委員 大淵 和美（小千谷市企画政策課デジタル戦略室長）
委員 高橋 悦子（小千谷市にぎわい交流課複合施設開設準備室）

図書館等複合施設整備事業 情報環境構築業務 公募型プロポーザル 評価点数及び審査講評

1 評価点数

第二次審査対象者の名称（審査順）	第一次審査	第二次審査	合計点
株式会社内田洋行	211	84	295
CEC 新潟情報サービス(株)	258	230	488
おぢや複合施設プロジェクト共同企業体	280	215	495

※第一次審査（300点満点）及び第二次審査（300点満点）の計600点満点（審査委員一人当たりの持ち点150点×4人）

2 審査講評

図書館等複合施設整備事業 情報環境構築業務公募型プロポーザルを実施しましたところ、これまでの我が国の図書館、博物館、文書館、教育機関などのデジタル情報環境のスタンダードを構築してきた事業者、あるいはまたこれからの情報環境構築に先端的に取り組んでいる事業者から構成される3つのチーム（事業体）から意欲的なご提案をいただいたことは感謝にたえません。

審査委員会として、本事業が目指すもの、事業者選定のプロセスを振り返りつつ、審査の結果についてご報告し、審査講評といたします。

空間と情報環境の融合・共創 — 本事業の目指すもの

小千谷市が進める図書館等複合施設整備事業は、市民の交流と創造を通じて、地域づくりを支えるこれからの公共空間を創造しようとするものです。図書館や博物館あるいはさまざまな体験や活動を通じて、今だからこそ可能な情報と人、人と人の出会い方を模索するチャレンジングな取り組みであり、二つの核心となるコンセプトを掲げています。

第一は「空間と情報の融合」です。

空間や時間の制約無しに大量の情報に触れることができる、デジタル・オープン・ネットワークコミュニケーションの時代において、リアルな施設空間においては、旧来の出版資料や博物の提供にとどまらず、施設外に存在する多様なデジタル情報、さらには施設内外の活動や行動により新たに創生される情報をもつないで、新しい情報体験をデザインしようとするものです。

第二は「共創」です。

新施設の空間や情報のあり方、自由な活動を可能にする運営のあり方など全てにわたって、事業主体である小千谷市、事業運営にあたる担当者たち、市民そして事業者が共に対話と協働を重ねて「共に創る」ことを目指しています。そのために小千谷リビングラボ「at!おぢや」を主な場として対話を続けています。

今回の審査においては、この二つの基本的なコンセプトを追求するに足る、技術提案力、事業体の体制及び共に創るコミュニケーション力を持った事業体であるかを評価の軸として選定を行いました。

事業者選定のプロセス

「空間と情報の融合」を掲げる本事業では、建築空間の設計に関わるプロポーザルにおいても、建築設計チーム内に情報環境をデザインするチームを擁することを条件としました。

本事業は、この情報環境チームの支援により新施設の情報計画を建築空間計画と接続された「情報環境基本計画」及び「同実施計画」として策定いたしました（詳細は小千谷市ホームページ掲載の「小千谷市図書館等複合施設 情報環境基本計画・説明書」及び同「実施計画・説明書」をご覧ください）。今回の情報環境構築業務公募型プロポーザルは、この計画を実装する力のある事業者を選定するために実施されました。

また、今回のプロポーザルのプロセスは、その情報環境チーム及び施設運営準備支援チームの両事業者の支援の下にデザインされました。

まず、プロポーザルに先立ち、公開サウンディング及び事業者ごとの非公開サウンディングを実施し、潜在的なプロポーザル参加事業者の皆さまに本プロジェクトへの理解を深めていただくと共に、事業体制構築や実装可能な技術についての相互理解を共有いたしました。この結果サウンディングに参加された事業者を中心として事業体が形成され、3事業体がプロポーザルに参加されることとなりました。

次に、書類審査の第一次審査、今回のプレゼンテーション第二次審査も「共創」のための対話を意識したプロセスといたしました。

第一次・第二次審査とも、審査（採点）・選定の責はあくまで各審査委員及び審査委員会にあります。施設の事業経営にあたる小千谷市にぎわい交流課職員も交えた意見交換の時間を設け、選定後に事業者と共に実際のシステム開発・運用が円滑に行われるよう意を払いました。

第二次審査のプレゼンテーションは一般公開とし、今後の「共創」の当事者となりうる市民のみなさんへの提案共有を図りました。また、審査委員と事業者間の技術提案に対する質疑に留まらないダイアログを実施いたしました。各事業者ごとの70分にわたるダイアログは、情報環境構築のための第一回企画会議のような形式としました。

技術提案に対する理解を深めるとともに、双方が課題と考える点や技術提案が持つさらなる可能性を対等な立場で議論することで、共に創るパートナーとして互いの力量を見極めるためです。

審査の結果 — 共に創るパートナーとしてどのような点を評価したか

本プロポーザルには3つの事業者（事業体）が参加し、ご提案をいただきました。審査委員会といたしましては、その中から、第一次審査、第二次審査の評点の合計をもって「おぢや複合施設プロジェクト共同企業体」を優先交渉権者として選定いたしました。前記の選定プロセスにおける審査委員会における意見交換と評価の内容を各者ごとに概述いたします（プレゼンテーション順）。

株式会社内田洋行 事業体

株式会社内田洋行を統括事業者とする事業体については、すでに実績のあるパッケージである図書館システム、アーカイブシステムからなる業務基盤システムに加え、これも実績のある RFID を活用したサイネージシステムと SNS などの組み合わせによる UI/UX(ユーザー・インターフェース/ユーザー・エクスペリエンス) を実装するという技術提案でした。

既存の技術・サービスを活用する考え方は、構築される情報環境を明らかに想像することができ、実現可能性が高く、運用負荷軽減に配慮したご提案である点は評価されました。

また、ダイアログを通じて、内田洋行のプロデュース力及び共創のための柔軟な発想とコミュニケーション力についても評価される所でした。

CEC 新潟情報サービス株式会社 事業体

次点となった CEC 新潟情報サービス株式会社を統括責任事業者とする事業体については、これもまた業務基盤についてはすでに実績のあるシステムのご提案でありましたが、新施設が市民と共に展開する活動が生成するであろうさまざまなフォーマットのデータを記録保存する柔軟性と市民の参画を可能にするインターフェースがあるものと評価します。

また、施設内にある情報のみならず、web を通じてアクセスすることのできるさまざまな情報を統合的、横断的に検索する仕組みを通じて、リアルな空間にもたらされるバーチャルな情報空間を豊かなものになっている点も高く評価されます。

さらに、新施設の図書館空間を構成する「フロート」における情報編集の営みを軸に、

運営者や市民の活動から編み出される情報のコンテキスト（文脈）を記録するという考え方は、本施設空間における空間と情報の融合の象徴となる仕組みをエンパワーするものと評価されました。

こうした情報編集の実現と持続のために、運営者の編集力や市民参画を促進するワークショップを織り込んだ提案や、ダイアログにおいて事業体を構成する各事業者が積極的に具体的なソリューションを繰り出しコミュニケーションするチームのありようも高く評価されました。

おぢや複合施設プロジェクト共同企業体

優先交渉権者となったおぢや複合施設プロジェクト共同企業体については、もっともチャレンジングな提案であったと評価されました。

業務基盤システムについては既製の SaaS (Software as a Service) を活用しつなげることで軽く、持続可能なものを新たに構築するという意欲的な提案でした。今後、その実現可能性を含め協議を進める必要がありますが、今の時代ならではのシステムアーキテクチャへのチャレンジが評価されます。

空間と情報が融合した情報環境にとって核となる UI/UX については、AI、顔認証、RFID などの技術の組み合わせにより、実空間である図書館に今までにない情報体験を構築しようとする点が高く評価されました。物理的トークンの「栞」により、実空間にある情報（書籍など）と外部の web 上の情報、さらには施設内外で繰り広げられる市民の活動をつなぐというアイデアも魅力的です。ただし、実現可能性や施設職員による持続的な運用など、乗り越えるべき課題もあります。

しかし、そのような困難なシステム開発を県内に拠点を置き事業展開する事業者の手で行うとすることや、こうしたシステムの支援を受けながら地域の魅力を創成する市民コミュニティの形成と共創活動をエンパワーするためのワークショップのための専門チームを有する点も評価されました。

おわりに

冒頭に記しました通り、小千谷市が進める図書館等複合施設整備事業は、今だからこそ可能な情報と人、人と人の出会い方を模索するチャレンジングな取り組みです。これからの公共空間のあり方には大きな未知の領域が広がっています。

本プロポーザルの審査においては、誰もまだ見たことのないその未知な領域についての思想と実現に向けたチャレンジ精神とそれを実装する技術力のバランスを見極めることに意を払いました。この点において最優秀交渉権者と次点の事業者に対する評価は評点の差以上に僅差でした。評価者が実現可能性とチャレンジのいずれに重きを置くか

によってその差は逆転するものでもありました。

しかし、本プロジェクトが目指すのは公共空間のまだ見ぬ新たな地平です。私たちはチャレンジ精神にかけたとも言えるでしょう。

建築空間や情報基盤は小千谷のみなさんの体験や活動の舞台装置に過ぎません。魅力ある暮らしつづけたいまちを手にするには、その舞台でみなさんがいかに楽しみながらいきいきと活動するかにかかっています。情報基盤の構築や新しい空間の運用について、より多くの方が一層注目し、小千谷リビングラボ「at!おぢや」などの対話の場にも参加されることを願っています。

図書館等複合施設整備事業 情報環境構築業務

公募型プロポーザル審査委員会 審査委員長 平賀 研也